

動作化してお話を楽しもう

使用教材：「三まいのおふだ」（二年下）

大田区立久原小学校 室伏亜紀

1 はじめに

学習指導要領の「二年の「伝統的な言語文化に関する事項」には、「低学年では、まず、読み聞かせを聞くことで、伝統的な言語文化にふれることの楽しさを実感できるようにすることが大切である」という趣旨が記されている。つまり、お話を聞いて、「おもしろかった。もっと聞いてみたい。自分でも読んでみたい」と感じることで、児童が伝統的な言語文化に親しんでいく始まりとなるのである。

本学級の児童は、五月に「いなばの白うさぎ」を学習した後に、ボランティアから「三まいのおふだ」の読み聞かせを聞いている。つまり、児童にとっては、この物語とは二回目の出会いとなる。そこで、今回は、学習指導要領「C 読むこと」②の「イ 物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりすること」と関連づけて、物語の一部を動作化することによって、場面の様子や登場人物の行動について想像を広げながら

楽しむことができるよう、活動を工夫した。

2 指導の実際（全一時間）

ねらい

読み聞かせを聞いて、登場人物の行動や場面の様子を想像して楽しむ。

学習活動

①登場人物と出来事を確認する。

以前に読み聞かせをしてもらったときのことを思い出し、「誰が出てきたか」「三枚のお札は、それぞれ何に変わったのか」ということについて発表し合う。

②本時のめあてを知る。

読み聞かせを聞いて、げきをたのしもう

実際には、教師の読み聞かせに合わせて人物の動きを表現する「動作化」の活動を行うが、児童にイメージをもたせやすくするため「げき」という言葉を使う。

③「三まいのおふだ」の読み聞かせを聞く。会話部分の方言や、独特の擬声語・擬態語など、昔話ならではの世界を味わうこと

3 おわりに

感想には、「山んばがほうちようをとぐところをげきでやってみたら、なんだかさわわしました」「大川ができたところのげきをやって、きつと、山んばはクロールとかができないと思いました。小ぞうをたべるのがたのしみで、いそいでいて、いきつきがでなくて水をのんだのだからうと思

いました」などの記述が見られた。動作化したことによって、物語の世界に入り込んで楽しみ、場面の様子を豊かに想像することができたものと考えられる。

以上のように、低学年においては、昔話の読み聞かせを聞いて話のおもしろさを楽しんだり、独特の語り口調や言い回しを味わったりする経験が、伝統的な言語文化に親しむ第一歩となる。さらに、役割読みや動作化など、児童が主体となる活動を行うことによって、昔話の世界を十分に楽しませたい。

昔話を1時間で楽しませるためのポイント

【読み聞かせの前に】

教科書には、3枚の挿絵が示されている。読み聞かせをする前に、絵を見て気づいたことを話し合う活動を行い、興味・関心を高めたい。

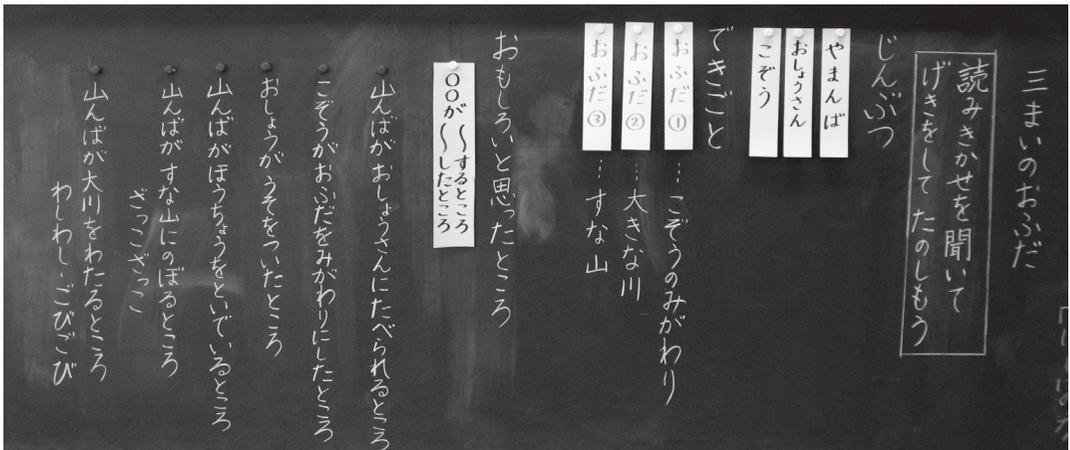
【読み聞かせの後に】

本事例では動作化を行ったが、この他に気に入った場面を役割読みして音読を楽しむこともできる。



「必死に手を振り回して泳いでいたと思う」と、山んばが大川を渡る様子を動作化する児童たち。

⑥感想を書いて発表する。本時の学習を振り返り、感想を書いて発表をする。
⑦いろいろな昔話があることを知る。事前に「山んばが出てくる話」「小僧が活躍する話」など、内容が関連する民話の絵本を用意しておき、紹介して読書活動につなげる。
⑧評価 読み聞かせを聞いて、登場人物の行動や場面の様子を想像して楽しんでいる（動作化の様子・感想によって評価を行う）。



板書例